

平成 25 年 1 月 4 日発行

有明ニュース

平成25年 1月号 No.15



がん研有明病院



〈当院正面玄関〉

新年のご挨拶

病院長 門田 守人

新年明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

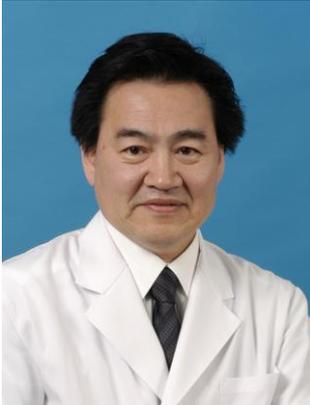


さて、一昨年に公益財団法人として、また、特定機能病院として新たにスタートした私達がん研有明病院であります。昨年一年間はその名に恥じない病院づくりを目指し、更なる改革を進めて参りました。「医学・医療の不確実性」と言われ、医療は 100 パーセント安全なものではないと考えられております。しかし、病院には最大限医療安全を担保しつつ、質の高い医療提供のための不断の努力が求められております。私たちは、これまでもこの点について積極的に取り組んできておりますが、患者の皆様へ安心・安全な医療を提供するため、更に強化を図るため、昨年 7 月に「医療クオリティマネジメントセンター」を新たに設置いたしました。これは以前医療支援部門にあった医療安全管理室、院内感染対策室をそれぞれ部に昇格させ、医療の質強化の観点から QI(クオリティインプルーブメント) 部を加え全体を一つのセンターとし、センター長には副院長を当て、専任の医師を置き運用することにしたものであります。その他としては臨床試験・研究センターや臨床教育研修センターを設置いたしました。医療の質の向上に加え、臨床教育や臨床研究、更には新薬開発に力を注ぐためであります。本年はこれらのセンターの更なる充実を図りたいと考えております。

皆様のご理解とご支援をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

婦人科の紹介

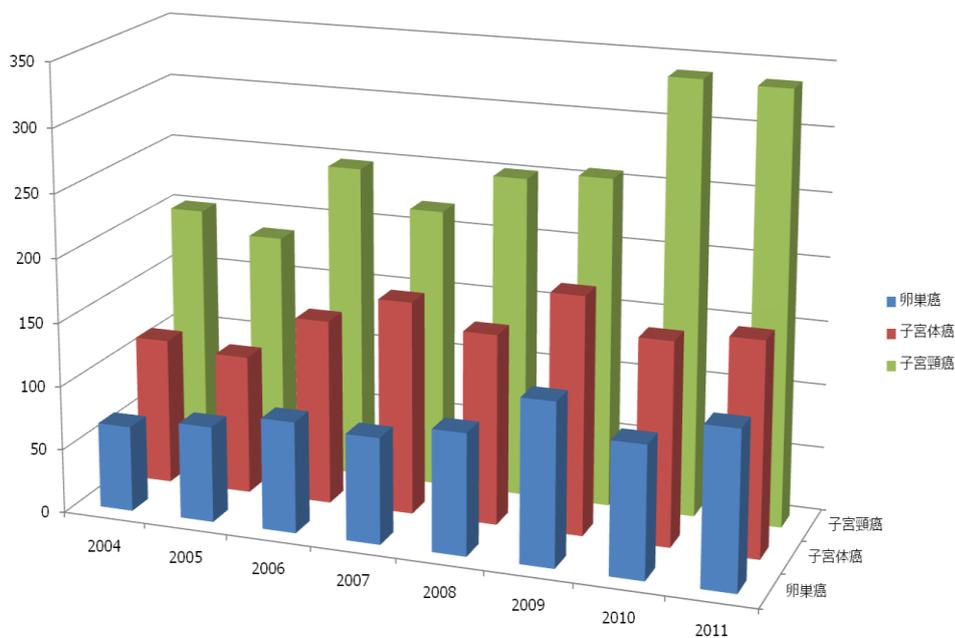
部長 竹島 信宏



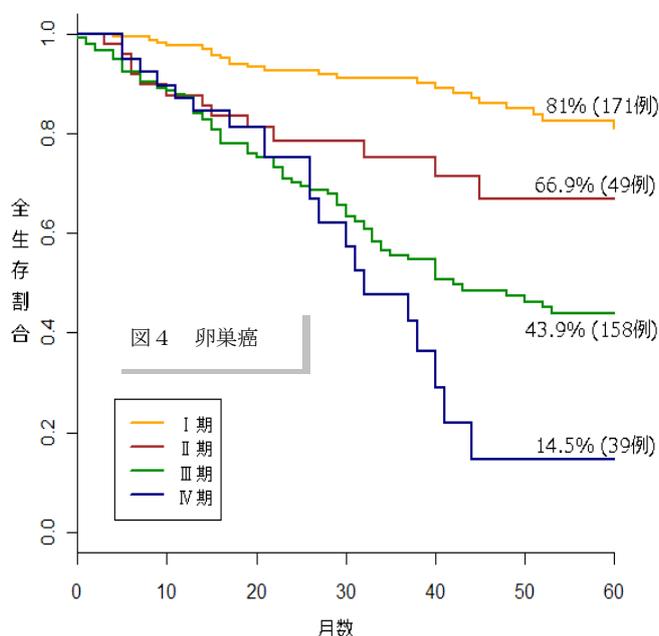
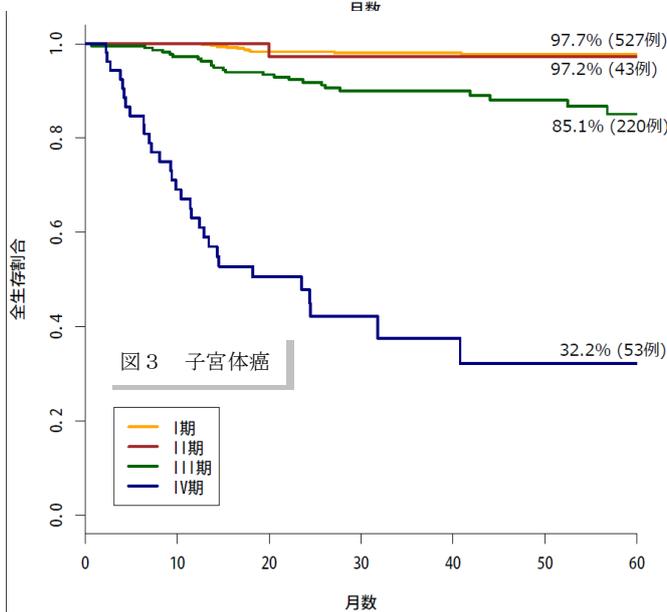
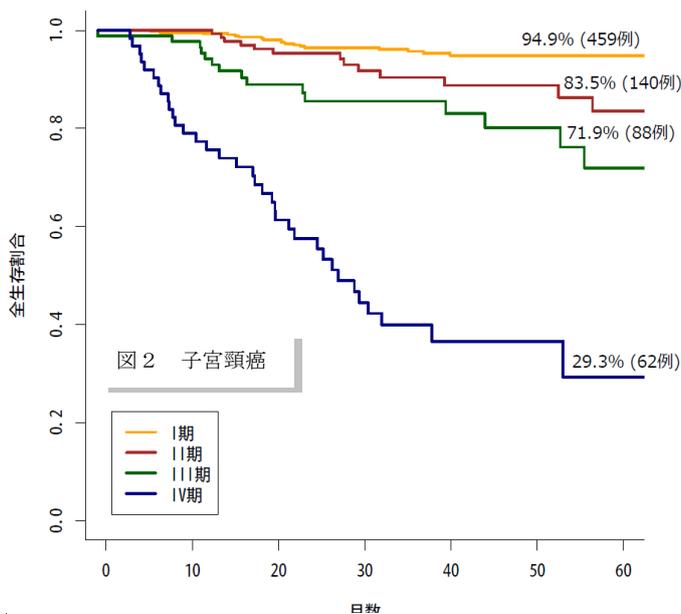
がん研有明病院婦人科では、常勤医師 17 名、90 床の体制で診療しております。スタッフの中には現在 9 名の婦人科腫瘍専門医がおり、また 1 名の外科専門医、1 名のがん薬物療法専門医、1 名の医学統計を専門とする医師を含んでいるのが大きな特徴となっています。婦人科悪性腫瘍の治療方針決定はしばしば容易でなく、当科では多くの症例において **Cancer Board** を開き治療方針を決めております。この会議では、婦人科腫瘍専門医だけでなく、上述の外科専門医の視点、腫瘍内科医などの視点に加え、1-2 名の放射線治療医、1 名の病理医、2 名前後の薬剤師、また通常 6 名前後の看護

師も同席し、幅広い視点で症例を検討するように努めています。この他に当科では、術前カンファレンス、術後カンファレンス、画像カンファレンス、最近の論文の検討会をそれぞれ週一回行っています。このような高度の専門性を基本に、より高いレベルの診療を目指し努力しています。

図 1 症例数の推移



比較的頻度の低い疾患である外陰癌、陰嚢癌、絨毛性疾患、あるいは子宮肉腫等の治療を含め、当科では全ての婦人科悪性腫瘍を治療の対象に診療をしております。ここ最近における、婦人科悪性腫瘍の主要 3 部門 (子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌) の症例数の推移を図 1 に示しました。子宮頸癌では既に予防ワクチ

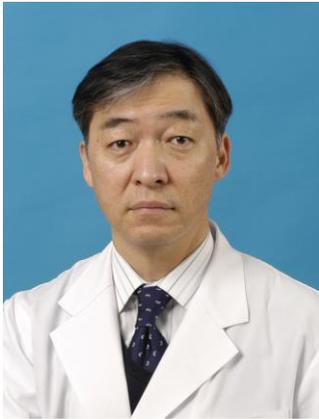


ンが登場し、将来この疾患の絶滅も期待されています。しかし、現状ではまだまだこの疾患の重要性は高く、特に若年患者の増加が問題となっています。この分野では、手術療法、化学療法、放射線療法の適応を慎重に検討し、治療を進めています。また、術後化学療法など当科独自の治療も行っています。子宮体癌におきましては、拡大手術と縮小手術のバランスが近年重要視されています。この分野では進行症例が最近増加しており、これらに対しては当科が得意としてきた拡大手術による根治を目指します。また一方で、リンパ節郭清の省略や鏡視下手術などの低侵襲治療も今後は進めてゆく予定です。卵巣癌においては、薬物療法の補助のもとに手術療法の強化を重点事項と考えており、より良い集学的治療を提供できるように努力しています。特にIII/IV期進行症例の治療成績の向上を重視しております。また当科では、リンパ浮腫外来や有明婦人科の会などの治療患者のQOLや親睦に関する活動も行っております。図2-4には当科における主要3部門(子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌)の治療成績を示しました。

本稿で示しましたように、がん研有明病院婦人科の症例数は順調に増加しています。これは殆どが近隣の施設からのご紹介であり、当科へのご期待の表れと考えております。当科の責任も年々大きくなってきていると重く受け止めており、今後更なる治療の質の向上に努める所存でございます。

総合腫瘍科の紹介

部長 高橋 俊二



総合腫瘍科は2012年4月に発足した新しい診療科です。いわゆる腫瘍内科に属し、頭頸部腫瘍、泌尿器腫瘍、肉腫、原発不明がんなど、従来内科医が関与していなかった領域の薬物治療を行います。それぞれの臓器を専門とする外科医や放射線科医と共同で診療を行っています。

当院では以前から多くのがんで内科医、外科医、放射線科医などが共同して議論を行いながら治療を行っていますが、総合腫瘍科はこの体制を更に広げるために、頭頸部がん、肉腫など今まで殆ど腫瘍内科医が関与していなかった領域にも関わっています。

現在でも殆どの施設では頭頸部がんは耳鼻咽喉科の医師、肉腫は整形外科の医師のみが診断、手術から薬物治療までを行っていますが、これらの領域でも分子標的治療薬など新規治療薬の開発が続いています。日本ではこれらの領域に関与する腫瘍内科医が極端に少ない為、欧米に比べて新薬開発が遅れがちになっています。我々はこの領域における新薬の開発に積極的に関与し、例えば頭頸部がんにおける治験の数ではすでに日本でのトップ施設の幾つかに入っています。更に、がん研にサルコーマセンターが発足し、希少腫瘍のため治療の開発が遅れがちな肉腫に対して、整形外科と総合腫瘍科が中心になって新しい治療を開発する体制を作っています。

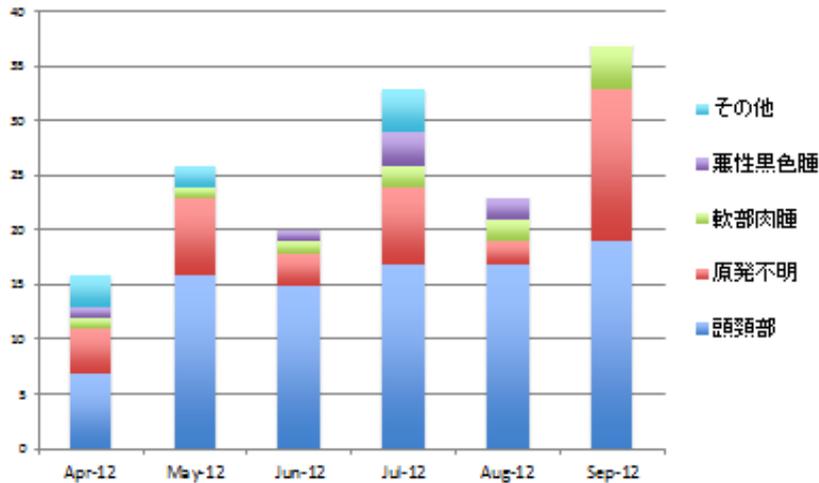
原発不明がんは種々の転移性病変で発見され、原発を検索しても明らかな病変が発見できない悪性腫瘍を指します。原発不明癌はいわゆる難治がんの最たるものの一つであり、患者の担当科が決まらず病院内あるいは病院間をたらい回しになり、そのうちに病変が進行して治療できずに亡くなるという経過をとる事も多いため、臨床腫瘍医として、原発不明癌の診断方針を決定し、治療の適応がある患者は素早く治療を開始し、治療の適応がない患者には緩和ケアを勧める能力が

必須です。当院では2005年から原発不明がんプロジェクトを開始し、原発不明がんの診断、治療方針の確立に努力しています。最終的に原発不明となり化学療法の適応がある患者さんには統一したプロトコールで化学療法(プラチナ+タキサンまたはイリノテカン)を行い、予後因子を明らかにしています。

総合腫瘍科の臨床業務

1. 頭頸部化学療法:入院で放射線同時化学療法、転移再発化学療法が中心
2. 肉腫に対する化学療法:転移再発化学療法が中心
3. 原発不明癌:外来治療が中心
4. 治験・臨床試験:頭頸部癌、泌尿器癌、肉腫、All-comer phase I を施行
5. 教育:化学療法部として腫瘍内科レジデント教育システムの整備

総合腫瘍科 新規患者数(2012.4-9)



また、総合腫瘍科は種々の臓器の薬物療法に関わるため、all comer (すべての癌種対象)の第1相試験の担い手になります。がん研の研究所や化学療法センターなど基礎部門と共同で新たな薬剤の開発を行っています。

一方、日本はがんの薬物治療の専門家である腫瘍

内科医がまだまだ足りず、若い医師の育成が必要です。当院では腫瘍内科医の集合体である化学療法部が一体となって、若い医師が各臓器の化学療法をローテーションして学んで貰う体制を作っています。このローテーションによって日本臨床腫瘍学会の薬物治療専門医を取得する事ができ、当院からは毎年多くの薬物治療専門医が巣立っています。

「がん研有明病院紹介セミナー」開催のお知らせ

日時：2013年2月20日(水) 19時～21時30分

場所：〒108-0075 東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー3F
「ザ・グランドホール」

交通：JR 山手線 品川駅 南口徒歩3分

上記日時にて、「がん研有明病院紹介セミナー」を開催いたします。

平素、お世話になっている先生方と当院との医療連携に関しまして、より一層の推進をはかりました、当院医師との意見交換を通じて「顔の見える連携を実現したい」と考えております。

先生方におかれましては、大変ご多忙とは存じますが、ぜひご参加いただけますよう、お願いいたします。また、看護師、技師、事務スタッフ等のご参加も歓迎いたします。

すでにご案内状をご送付させておりますが、万一、ご案内が届いていない場合、またお問い合わせがございましたら、医療連携課までご連絡下さい。よろしくお願いいたします。

お知らせ

手術室増設のお知らせ

当院では手術を希望されている患者さんが多数いらっしゃるのが現状です。これまでも医師・看護師をはじめ職員一同が、一日でも早く手術ができるよう努力してまいりましたが、さらに少しでも多くの患者さんに早く手術を頂けるよう、平成24年10月に手術室を1室増設いたしました。手術室の数が16室になり、年間約500件の手術数の増加が見込まれます。

がん治療最前線の病院として、引き続き皆さまのご期待に応えるため、全職員一丸となりさらなる努力をいたす所存です。

平成25年度レジデント募集のお知らせ

当院では、各専門分野の研修を通してがんの臨床および基礎に関する知識ならびに技術の習得を図り、優れたがん診療の専門医を育成するため、レジデントを募集いたしております。（詳細は当院ホームページ「医師・レジデント採用情報」をご覧ください。）

医療連携課のご案内

医療連携課では、医療機関の先生方からご紹介をいただいた患者さんの診察・セカンドオピニオンの予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけてまいります。ご紹介は、下記の電話・FAXでお申込みいただけます。（患者さん自身でお電話いただき予約することもできます。）

電話：03-3570-0506（医療機関様用）

03-3570-0541（患者様用）

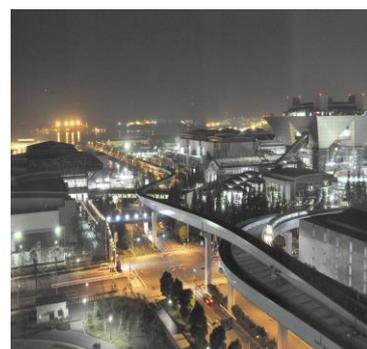
FAX：03-3570-0254

《編集後記》

あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします

新年を迎え、新たな気持ちで医療連携業務に取り組んでいきます。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。（石井）



公益財団法人 がん研究会有明病院

発行：医療連携課

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL 03-3570-0506 FAX 03-3570-0254 (E-mail): renkei@jfcr.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.jfcr.or.jp/hospital/>